

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法		
		評価指標と活動計画	評価				
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1)教職員研修の充実を図ることで教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。 (2)教育環境を整え、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりを推進する。 (3)広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①各種教職員研修の充実 ①協働精神に満ちた教職員の組織づくり ①教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成 ②特色ある学校づくりの推進 ②学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動 やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信の推進	評価指標 ①-1 各種教職員研修の実施 【各学期1回以上】 ①-2 教員組織としての連携度合いを図るアンケートの実施 【充実度：90%以上】 ①-3 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教員組織としての意思統一を図る。 【ウイルスチェック：年6回以上】 ②-1 地域に向けた開放講座の実施 【年間3回以上】 ②-2 地域貢献並びに環境保全活動の実施 【年間5回以上】 ③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数の増加 【年間1万件以上】 ③-2 体験入学における中学生の満足度の向上（保護者を含む） 【満足度：70%以上】 活動計画 ①-1 コンプライアンス、特別支援教育などの研修会を実施する。 ①-2 コンピュータ・メソッドの共有フォルダを活用し、校務の効率化を図る。 ①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。 ①-4 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防止の徹底を図る。 ②-1 生徒が主体となった地域連携を推進する。 ②-2 農業に関する専門教育を通じたボランティア活動を実施する。 ③-1 保護者や地域に本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムに情報発信できるようホームページの更新・充実を図る。 ③-2 体験入学において、本校の特色ある学習内容に関する講座を開講実施する。	評価指標の達成度 ①-1 職員研修等 【年間10回実施】 ①-2 共通理解並びに風通しの良さ 【教員意識調査 98.8%】 ①-3 最新ウイルスバスターに更新 【ウイルスチェック 3回】 【情報セキュリティチェック 10回】 【情報セキュリティ研修 3回】 ②-1 開放講座実施はできなかったものの地域イベントへは積極的に参加した。 ②-2 アドプト事業 年間 5回 希少植物の保護活動 年間 3回 河川の環境調査 7月実施 ③-1 学校ホームページ更新数 【年間 45回】 アクセス数【年間32,000件以上】 ③-2 中学生満足度 90.4% 自ら希望して参加 50%	評価 ① B ② B ③ A	総合評価 B (所見) ・職員間の意思疎通がスムーズに行われたことで、問題等に対して適切に対応できた。 ・各種職員研修は計画的に実施され、教育実践に活かされている。 ・本校に入学して良かったと思う生徒(76.4%)より保護者(92.6%)の学校満足度が圧倒的高かった。 ・ボランティア活動等の取組はまだまだ少ないものの、地元神山町への貢献度は高くなりつつある。 ・今後、積極的に開放講座等を取り入れ地域に発信する中で特色ある学校づくりを推進する必要がある。 ・体験入学等での生徒の満足度は高く、これからもあらゆる機会を捉え本校の活動を情報発信していく必要がある。	○地域に根ざした学校作りが推進されており、地域貢献を含め、今後も継続して取り組んでほしい。 ○学校の将来像について10年後を見据えた分校教育の在り方について検討してほしい。 (現在の科、教育課程の枠内での対応と改革も視野に入れた教育内容について) ※現在できるものとしては評価Aでもいいのではないかと。 ○設定科目「地域学」などを各学年1単位程度設ける。地域の課題を生徒が調べ、まとめ、発表する。地域の人に学校へ来てもらい、古い知識や技術の伝承、そして新しく町に入ってきた人からは最先端のものを教えてもらうなど(他県で実際にやっている学校がある) ○町営バスの利用について問い合わせたところ、利用できるかもしれないとの回答をもらったまた、学校の方でも役場と話し合っしてほしい。バスが利用できると町内での活動の幅が広がり、町内の方々に分校がどんな活動をしているのかをアピールできると思う。そうすれば、町内の子供たちが分校に入学してくれと思う。	○校内サーバーの活用を推進し情報セキュリティポリシーの遵守を徹底する。 ○各種の教職員研修を教職員の資質向上を図るとともに、組織としての共通理解を進める機会として活用する。 ○継続的に地域に根ざした活動等を推進する上で、生徒を前面に出した取組を検討する。 ○ホームページの運営に関しては、学校全体に目を向け、リアルタイムに情報発信ができるよう取り組む。
		備考 評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成					

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	評価			
2 確かな学力の育成	(全体レベル) (1)基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 (2)個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストを育成する。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上に向けた取り組み ①学校関係者評価アンケートの実施 ①図書室利用のオリエンテーションを開催する。 ①図書室の活用率の向上 ②各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上 ②体験的・実践的な農業教育の推進	評価指標 ①-1 基礎学力の向上 【漢字・計算・英単語テストで各クラスの平均点60点以上】 ①-2 図書室の利用回数の増加 【各月1回以上】 ①-3 図書室だよりの発行 【年間4回以上】 ①-4 読書率の向上 【平均貸出冊数1人当たり3冊以上】 ①-5 読み聞かせ会の実施 【各学期1回以上】	評価指標の達成度 ①-1 平均60点以上3クラス 1L (60, 5) 2L (51, 8) 3L (54, 9) 1D (60, 1) 2D (46, 1) 3D (67, 5) ①-2 図書室の利用回数 【達成率：58%】 ①-3 図書室だより発行 【発行数：1回】 ①-4 平均貸出冊数 1.1冊 【達成率 37%】 ①-5 読み聞かせ会 【実施回数 3回】	総合評価 C E B	○学力の向上、定着はなかなか難しいことである。放課後の活動もバスの関係で難しいところではあるが、基礎学力補充の学習や読書の時間などを設けてはどうか。 C	○基礎学力テストでの目標達成とともに、クラス間格差を縮める策が必要である。 ○造園技能検定と園芸装飾検定では、全員合格を目指すとともに、合格率を80%以上にする。また、できるだけ前期での合格者を増やす。 ○資格取得についても積極的に実施し、内容の変更も検討する。 ○図書室の昼休み開室回数の改善をしていく。 ○図書の購入の時期を早めて、購入回数も増やす。 ○読み聞かせ会にむけての事前の練習時間の確保など、図書委員を中心に話し合い改善していく。
		活動計画 ①-1 ホームルームの時間の活用など、教科以外での学習時間を確保する。 ①-2 ホームルーム活動を利用して図書室で本を借りる時間を作り、読書量を増やす。 ①-3 図書委員を中心に購入図書のご案内を定期的に行う。 ①-4 月10回の予定で開室し、図書室の活用を図る。 ①-5 図書委員を中心として、学期に1回程度の読み聞かせを行うなかで読書を推進する。 ②-1 検定全員合格を目指し教科指導や時間外授業で取得を図る。 ②-2 担当教員を配置し、進捗状況を農場長が把握する。 ②-3 産学官連携事業で講師を依頼し積極的に体験型学習を推進していく。 ②-4 資格が将来の仕事や日常生活などにおいて役立つことを認識させる。	活動計画の実施状況 ①-1 教科外での学習時間確保 1,2年生 年間で30回実施 3年生 年間で27回実施 ①-2 各授業での図書室利用 利用回数 69回 ①-3 購入図書の案内 1回 ①-4 図書室の開室回数 月11回 ①-5 読み書かせ会実施回数 3回 ②-1 専門科目の授業を中心に、農場当番や放課後の時間を活用した。 ②-2 各資格に担当教員を配置し、農場長への報告を行った。 ②-3 年間を通して「造園男子」・「森林女子」の活動を行った。 ②-4 造園技能検定、園芸装飾検定、危険物取扱者資格、特別講習(伐木、刈払機、フォークリフト)を実施 (延人数107人)	(所見) ・基礎学力テストでの目標達成は半数 また、クラス間での格差が大きかった。 ・造園技能検定と園芸装飾検定では、全員合格を目指している。7名の後期受検の合格発表は3月11日である。また、危険物取扱者資格(乙4類)合格者1名を出すことができた。 ・「造園男子」・「森林女子」の活動を通して、産学官連携が積極的に行われた。また、昨年以上に資格取得にチャレンジする生徒が多かった。 ・図書室の利用者数並びに貸出冊数ともに昨年を下回った。 ・図書の購入時期が遅くなり、年間1回になってしまった。 ・読み聞かせ会については各ホームルームの図書委員を中心に3回実施でき、多くの生徒が聞きに来てくれた。		

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価		
3 生徒指導の徹底	(全体レベル) (1) 基本的生活習慣を確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 (2) 教職員の共通理解を図り、保護者、地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (3) 教職員間での情報の共有化を推進する。 (下位組織レベル) ① 基本的生活習慣の確立 ① よりよく生きるための資質を育成(道徳教育) ② 保護者、地域社会、関係機関との連携を密にした指導の実践 ③ 教職員間での情報の共有化並びに連携強化	評価指標 ①-1 頭髪・服装検査の実施 【毎月1回以上の実施】 ①-2 全校集会の実施 【学期に1回以上の実施】	評価指標の達成度 ①-1 毎月1回以上の実施済み ①-2 全校集会は計画通り実施され、状況に応じて対応できている。	評価 評定 B 総合評価 C	○ きめ細かい指導がよくできていると思うが、交通マナーの育成などの校内だけでなく、校外での指導も含めて、動きのある生徒指導をしてほしい。 B ○ 全校生徒の約2/3がバスで通学しており、公共交通機関の利用の仕方や乗車マナー等の指導を定期的に行っているが、乗車マナーで注意された生徒もあり、さらに継続した指導が必要である。また、平成28年度から町のバス代の通学費助成金制度がはじまり、制度を利用する生徒の指導も徹底する必要がある。 ○ 町外から登校する生徒が増える中で、生活環境や家庭環境も多様化する現状を踏まえ、教員組織や保護者との連携推進をさらに進める必要がある。
		活動計画 ①-1 毎月20日の校門指導を実施し、生徒の指導に役立てる。 ①-2 状況に応じて全校集会を実施し、全職員で支援、指導を行う。 ②-1 PTA総会や保護者面談等において、教職員と保護者の共通理解を図るため生徒指導の情報交換を行う。 ③-1 生徒の教育相談に使える場所を作り、いつでも相談できるような環境を整える。 ③-2 研修会や研究発表大会への参加を図り、得た知識等を校内人権研修で他の教職員に還元する。	活動計画の実施状況 ①-1 ほぼ計画通りに校門指導を実施しすることができた。 ①-2 全職員で支援・指導に取り組むことができ、さらに状況に応じた全校集会も実施できた。 ②-1 PTA総会や保護者面談等において、教職員と保護者の共通理解を図る情報交換ができている。 ③-1 教育相談室も設置されており、状況に応じて効率よく活用されている。 ③-2 研修会や研究発表大会への出席は計画通り実施できている。また、得た知識や情報は、職員会議等を利用し、全教職員に周知徹底を図っている。	(所見) ・頭髪並びに服装については、ほとんどの生徒が校則を守り、身だしなみを整えることができているが、一部の女子生徒にスカート丈の短いものを着用している現状がある。粘り強く指導することで指導には従うが、継続することができていない。保護者、学校が協力して、これからは粘り強く指導したい。 ・生徒の問題行動も4件と少いが油断することなく、保護者、学校、関係機関が協力して、生徒の健全育成に努めたい。 ・活動計画の実施状況では、校門指導、全校集会、PTA総会、保護者面談等、全教職員の協力によりほぼ計画通りに実施できているが、今後は家庭環境や生活実態の多様化により、効果的な指導方法や生徒理解に努める必要がある。	

【備考】 評価における「評定」の基準 A: 100%達成 B: 80%以上達成 C: 80%未満~70%以上達成 D: 70%未満~60%以上達成 E: 60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	
4 人権教育並びに特別支援教育の推進	(全体レベル) (1)普遍的・個別的な観点から学校教育全体をとおして人権教育を推進する。 (2)自他を大切に作る心や態度を育成する。 (3)特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。 (下位組織レベル) ①人権学習ホームルーム活動の充実 ②人権啓発活動の充実 ②人権教育教職員研修の充実 ③特別支援体制の確立及び関係機関との連携推進	①-1 人権ホームルーム活動の実施 【年間5回以上】	①-1 人権ホームルーム活動 【年間5回以上実施】	B	B	○自己肯定感を高める活動をホームルームだけでなく、特別活動、農業クラブ活動など様々な場面で行う。そのことが、生徒の学習意欲を高め、学校生活への充実感・満足感に繋がるのではないかと、(そういう意味で森林女子や造園男子の取り組みは素晴らしい。) ○ 教職員が少なく、校務分掌をいくつも掛け持ちをしており、時間的な余裕も少ない。その中でどのように問題を抱える生徒に関わっていくのか、年度当初に共通理解を図り、協力体制を築くことが課題である。 ○ 生徒の自尊感情を高める人権教育に努めるとともに、保護者への人権啓発の機会を充実させる。 ○ 教職員人権研修をとおして人権意識の向上を図るとともに、組織としての共通理解を進める場として活用する。
		①-2 人権意識に関するアンケートの実施 【人権意識向上率：75%以上】	①-2 人権意識に関するアンケートはまだ実施できていない(3月に実施予定)。			
		②-1 保護者への人権啓発の機会を図る。 【年間2回以上】	②-1 人権啓発に向けた取組 【年間2回実施】	B	(所見) ・すべての教職員が全員の生徒に関わることを通して、人権教育や特別支援教育の推進に取り組むことができた。	
		②-2 教職員人権研修の実施 【年間3回以上】	②-2 教職員人権研修の実施 【年間2回実施】			
		③-1 教職員間での教育相談体制を整える。	③-1 問題を抱える生徒に対し、組織的に関わられた。	B	・人権ホームルーム活動以外でも、NIEと連携して人権に関する新聞記事を活用し、人権意識の向上を図った。 ・教職員人権研修では、フィールドワークを取り入れた合同地域研修も実施し、教職員の人権意識の向上に努めることができた。 ・発達障害やそれに伴う二次的な障害を理解するための研修を実施したい。	
		③-2 特別支援教育研修の実施 【年間1回以上】	③-2 特別支援教育研修は行っていない。			
活動計画	活動計画の実施状況					
①-1 アンケート結果を活用し、生徒の実態に即した内容を扱う。	①-1 生徒の実態に即した人権ホームルーム活動を実施できた。					
①-2 ロールプレイングや事例検討等の体験的活動を取り入れる。	①-2 就職差別についての研修やフィールドワークを実施できた。					
②-1 PTA総会や保護者面談等において人権教育の啓発を行う。	②-1 PTA総会や保護者面談を中心に人権教育の啓発を行った。					
②-2 研修会や研究発表大会への参加を図り、得た知識等を校内人権研修で他の教職員に還元する。	②-2 高人研主事会や研究部会、各種研究発表大会に参加し、得た知識等を教職員人権研修を中心に教職員に還元できた。					
③-1 生徒の教育相談に使える場所を作り、いつでも相談できるような環境を整える。	③-1 担任並びに学年団の教員が教育相談に関わり、生徒が相談しやすい環境作りを行った。					
③-2 研修会で学んだことや他の学校の取り組みについて、職員会議等で報告する。	③-2 教育相談や特別支援の研修会に参加し、問題を抱える生徒がいるホームルームの担任には報告したが、職員全体への報告はできなかった。					

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

自 己 評 価				学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方法
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	
5 進路指導の充実	(全体レベル) (1)望ましい勤労観・職業観の育成とともに自らの将来設計の構築を図る。 (2)進路情報の的確な提供による進路指導の充実を徹底する。 (3)進路先の確保並びに定着化のための指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ①望ましい勤労観・職業観の育成のためガイダンス・進路相談等の充実 ②生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底 ③個々の希望に応じた進路開拓の推進 ③特別支援を必要とする生徒への対応	①-1 進路説明会を各学年で適期に実施する。【各学年最低1回】 ①-2 入学時から自分の進路に関する目的意識を持たせる。【長期欠席者8%以下】	①-1 進路説明会の実施【1・3年：1回,2年：2回】 ①-2 進路に関する目的意識醸成の徹底を図る。【長期欠席者 2.4%】	B	B	○「まじめで一生懸命」だけでは不十分という企業担当者の言葉は厳しいが、誠実でコツコツと努力する人材の育成は必要である。 学校生活における充実感をより高める総合的な取り組みとともに、インターンシップなど進路に具体性を持たせる指導や専門機関との連携をより高めてほしい。 B
		②-1 オープンスクールや企業に関する情報を生徒に周知する。【オープンスクール参加率：90%以上】 ②-2 個別指導の徹底や出題問題の提供などを積極的に行う。【過去問の提供100%】	②-1 オープンスクールや企業に関する情報を生徒に周知した。【オープンスクール参加率：100%】 ②-2 個別指導の徹底や出題問題の提供などを積極的に行った。【過去問の提供 100%】			
	③-1 個人面談・三者面談を効果的に実施する。【面談実施率:100%】 ③-2 会社訪問や学校説明会への参加を積極的に実施する。【希望企業への訪問：2回以上】 ③-3 生徒の状況に応じた進路指導を実践する。【関係機関との連携：90%以上】	③-1 個人面談・三者面談を効果的に実施【面談実施率:100%】 ③-2 会社訪問や学校説明会への参加を積極的に実施【企業訪問・担当者面談平均：3回】 ③-3 生徒の状況に応じた進路指導を実践【関係機関連携：100%】	B	○ アクティブラーニングを積極的に取り入れたり、専門教育やNIEなどの体験型の学習を積極的に進路指導と絡めて実施していく必要がある。 ○ 関係機関や企業・保護者との連携については今年度の取組が有効であり、継続実施していく必要がある。 ○ 進路指導については一年時からの積み重ねが不可欠であり、継続指導とともに様々な工夫が必要である。		
	活動計画 ①-1 進路説明会や三者面談を適宜実施する。 ①-2 教職員組織の連携を強化する。 ②-1 進路情報の提供を徹底する。 ②-2 補習体制を充実させる。 ③-1 個人・三者面談による意思確認を積極的に行う。 ③-2 職場見学やインターンシップについても積極的に取り入れる。 ③-3 ハローワークと連携してより生徒の要請や適性に応じた進路開拓を実施する。 ③-4 特別支援を要する生徒に関して、専門機関との連携を密にする。	活動計画の実施状況 ①-1 進路説明会や三者面談を適宜実施した。 ①-2 教職員組織の連携を推進した。 ②-1 進路情報の提供を徹底した。 ②-2 実効的な個別指導実施した。 ③-1 個人・三者面談による意思確認を積極的に行った。 ③-2 職場見学やインターンシップについても積極的に取り入れた。 ③-3 ハローワークと連携してより生徒の要請や適性に応じた進路開拓を実施、内定に至った。 ③-4 専門機関との連携を密にし、就労支援に向けて体制が整った。			B	

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価		
6 活力ある特別活動の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 神農クラブ活動・ホームルーム活動・学校行事の活性化を図る。 (2) 部活動の活性化を図る。 (3) 地域の環境整備の活性化を図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 神農クラブ活動, ホームルーム活動の活性化 ① 学校行事の活性化 ② 部活動の活性化と学校リーダーの育成 ② 農業クラブ活動の充実 ③ 自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 産学官地域連携事業の実施 【企業3回以上, 県及び町3回以上】</p> <p>①-2 活動の発表会を2回以上行いアンケートを実施する。 【充実度80%以上】</p> <p>①-3 広報宣伝活動を行い神山町の活性化の一助とする。 【学校ホームページ6回以上更新】</p> <p>①-4 学校行事における, 生徒の積極的な参加を推進する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 産学官連携 【連携回数 5回実施】</p> <p>①-2 活動の発表会 【12月と1月に実施】 【良かった：約85%】</p> <p>①-3 ホームページ関連 7回更新 プロモーションビデオを作成し県庁で放映, 新聞に5回掲載</p> <p>①-4 学校行事への取組 【参加率95.6%】</p>	<p>評定</p> <p>総合評価</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>(所見)</p> <p>・企業連携並びに徳島県との連携は森林女子の取組で目標が達成できた。</p> <p>・神山町との連携は目標を達成できた, また宣伝活動も積極的に新聞に掲載された。報告会については, 12月に1回, 1月に1回実施した。</p> <p>・部活動については帰りのバスの便等が影響し50%程度にとどまった。</p> <p>・環境活動については各学年毎に日程を定め計画的に実施できた。</p> <p>・タンポポ生育調査は夏季休業中に予定していたが, 調査時期に問題があり, 今後春時期の検討を行っている。</p>	<p>○部活動については, 生徒数, 通学のことも, 学校行事, 農業クラブ活動や地域貢献活動(ポランテニア活動)など, 生徒が活躍できる場を設け, 活用することが大事である。</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>(神山のおかれている状況を踏まえ, ICTなどの新規参入事業などは, 生徒の活動の幅を広げる意味では必要ではないか。)</p> <p>○本年度産学官連携により, 目標以上の活動が展開できた。効果にも繋がった。計画を定め引き続きの課題と考える。3年生が中心となった連携事業では, 各学年が携われる改善を行う。</p> <p>○調査活動については, 長期休業中を活用した計画を改善に努める。</p> <p>○農業教員の統一した農薬管理の意識無げや日頃の農薬栽培への改善が重要である。</p> <p>○農業クラブ活動を重点に取組んだ成果, 学校行事の活性化に繋がった。生徒会や家庭クラブと連携を図り, 具体的な改善策がある。</p>
		<p>② 部活動入部率を向上させる。 【部活動入部率：60%以上】</p> <p>③-1 ゴミゼロキャンペーンの実施 【ホームルーム活動で3回以上】</p> <p>③-2 バス停清掃の実施 【各クラス年間2回以上】</p> <p>③-3 アドプト事業によるクリーン作戦の実施 【各クラス年間2回以上】</p> <p>③-4 鮎喰川の生物環境調査の実施 【夏期休業中2回以上】</p>	<p>③ 部活動入部率 50%</p> <p>③-1 ゴミゼロキャンペーン 【3回実施】</p> <p>③-2 バス停清掃の実施 【クラス単位 12回実施】</p> <p>③-3 アドプト事業によるクリーン作戦の実施 【クラス単位 6回実施】</p> <p>③-4 鮎喰川の生物環境調査の実施 【夏期休業中 1回実施】</p>	<p>評定</p> <p style="text-align: center;">B</p>	
		<p>④-1 タンポポ生育調査 【調査区域5カ所以上】</p> <p>④-2 農薬及び化学肥料の使用量の削減 【昨年度使用量：10%減】</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 農業クラブのプロジェクト学習を実施する。</p> <p>①-2 農業クラブ県予選出場並びに産業教育展でのパネル展示, 課題研究報告会の実施による活性化を推進する。</p> <p>①-3 農業クラブの活動報告会を実施するなど活動の活性化を図る。</p>	<p>④-1 タンポポ生育調査 【調査なし】</p> <p>④-2 農薬使用量 【昨年度と同様】</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 本年度, 農業クラブプロジェクト発表会(文化生活の部)出場【県大会 優秀賞】</p> <p>①-2 造園土木科・生活科で活動のパネル展示を行った。課題研究報告会を産学官報告会と総合実習で実施</p> <p>①-3 農業クラブの活動報告会も12月に行った産学官連携報告会で実施した。</p> <p>②-1 四国大会は出場できなかった。全国大会は農業鑑定競技で造園科1名, 生活科1名参加するが入賞できなかった。</p> <p>②-2 地域連携は本年度「産学官連携事業」で広報できた。</p> <p>②-3 本年度は高校総合体育大会のみの参加となった。</p> <p>③-1 有機農法では農薬削減に推進できたがバイオエネルギー等の省エネルギー化はできなかった。</p> <p>③-2 化学肥料使用度は減すことができた。</p>	<p>評定</p> <p style="text-align: center;">E</p>	

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成27年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法		
		評価指標と活動計画	評価				
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) (1)自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (2)学校版環境ISO認定校として実践を推進する。 (3)食の安全・安心の観点からの教育を推進する。 (下位組織レベル) ①安全教育の充実 ①効果的な防災教育の計画・実践 ①有効適切な防災避難訓練の企画と展開 ①適切な保健管理 ①自己の健康管理能力の育成 ①適切な健康相談活動 ②節電・節水・ゴミの分別の徹底 ②校内の美化 ②正しい農薬散布の徹底と事故防止 ③食育の実施	評価指標 ①-1 帰宅困難時に備え備蓄計画を継続する。 【非常時備蓄数：昨年の10%増】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【年間3回以上】 ①-3 防災クラブの設置 【地域・保護者と連携した活動1回以上】 ①-4 避難消火訓練の実施 【地元消防署との合同訓練 1回以上】	評価指標の達成度 ①-1 備蓄計画 【現在備蓄 昨年度 50%増】 ①-2 避難訓練 【5月・9月・11月・12月・3月実施】 ①-3 防災クラブの設置 【5月に設置】 【防災活動 3回実施】 ①-4 避難訓練の実施 【年間 2回実施】	評価 総合評価 A	○防災、環境教育については、先進校と比べていいのではないかと。防災クラブの活動をより強化し、地域防災の上で、中心的な役割を果たす、地域防災の担い手という自覚を持った取り組み、地域と連携した活動をより進めてほしい。 ○土砂崩れで、道路が不通になった時、生徒はどうするのか(学校での宿泊も含めて) ○地域住民が10~20人避難してきた時、学校は何ができるのか、何をすればよいのかなど生徒の意見を出させるとともに、想定、模擬訓練の実施	○ 地元消防隊との連携で計画的に避難訓練や防災訓練が実施できたが、雨天時の防災プログラムを考える必要がある。 ○ 環境プロジェクトは地元、NPO法人グリーンバレーと連携を図り公共施設の整備に努めた。今後も積極的に奉仕活動を推進していく。 ○ 生徒の移動手段が活動を制限する大きな要因となっており今後、事業の中で予算計上していく必要がある。	
		②-1 地元NPOグリーンバレーと協力し学校周辺の美化に努める。 【年間活動：6回以上】 ②-2 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【年間3回以上】	②-1 美化活動(アドプト) 【年間 8回実施】 ②-2 清掃活動(バス停清掃) 【年間 8回実施】	A			(所見) ・5月に「守るぞ!地域防災推進事業」の指定を受け防災クラブを「神農クラブ」のメンバーで立ち上げ活動している。また、本年度体育大会では、防災活動の種目を加え、全校生徒・保護者・地域の方に意識の高まりを伝えた。
		③-1 安全・安心な農業生産物を提供する。 【生産者表示の徹底100%】 ③-2 スダチの安 ² GAP申請に関する教員研修の実施 【教員研修会：年間1回以上】 ③-3 生徒への安全・安心な食の意識調査を実施	③-1 農業生産物で生産者表示の徹底 【生産者表示 100%実施】 ③-2 スダチの安 ² GAP教員研修 【3月実施】 ③-3 生徒への意識調査 【講演会の中で9月に実施】	A			・アドプト・ザ・ハイウェイをはじめ積極的に道路整備と除草作業に貢献できている。 ・道の駅の販売や校内販売での生産表示はシールを貼り生産者の表示が分かるように工夫している。 ・GAP教育に関する研修並びに各部門での農薬管理についての調査を今後、計画していく。
		活動計画 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を実施、計画の不備が発見次第、早急に改善する。 ①-3 神農祭で地域・保護者・神農クラブが連携し炊きだし体験を実施する。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施する。 ②-1 各教室に節電に係わる啓発チラシを掲示、節電に心がける。 ②-2 昨年度の月々水道料金3割減に努め節水を推進する。 ②-3 農薬散布の使用割合を年間を通して減らしていく。 ③-3 地元特産スダチを使用した6次産業化に取り組む。	活動計画の実施状況 ①-1 台風時期は問題なく点検できたが今後、積雪時期に備えた備蓄点検を行っていく。 ①-2 随時教職員の緊急連絡体制を改善することができた。 ①-3 神農祭で防災クラブが中心となり炊きだし体験を実施した。 ①-4 7月にAEDを使った心肺蘇生研修を生徒・教職員に実施した。 ②-1 各教室に節電に係わる啓発チラシやポスターを掲示し節電に心がけた。 ②-2 昨年度並の水道料金となった。 ②-3 農薬散布の使用割合を減少させることができた。 ③-3 今後、課題研究等を活用しスダチ果汁を使用した商品化を検討している。	A			

【備考】評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満~70%以上達成 D：70%未満~60%以上達成 E：60%未満達成